

(学年) 1年次, (教科・科目) コミュニケーション英語 I

一斉学習

## (単元) Lesson 6 Biodiesel Adventure

(本時のねらい)

本単元は、バイオディーゼル燃料で走るヴァスコファイブ号を取り上げ、環境問題解決のための啓発活動について説明している。ここで学習する背景知識や豊富な言語材料を用い、環境問題について今まで学んできたことをもとに、英語で自分の考えを表現することにつなげたい。また、過去完了形を用いて、これまで取り組まれてきた環境保全活動を時系列に並べることにより、物事についての説明を付け加え情報量を増やす力や、自分の考えを効果的に伝える表現を身につけさせることができると考える。さらに、生徒が重要性を感じやすいテーマであり、自分の意見を考えてまとめる力や、将来的なディベートの素養を身につけるのに適した題材である。

(ICT 活用方法)

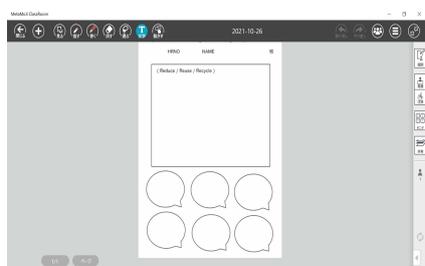
外国語の授業では、生徒に「言語の実際の使用場面を想定させる」ために、ビデオや写真などの様々な ICT を用いてきたが、電子黒板を活用することにより、それらの準備時間を短縮できるようになった。本授業では、電子黒板を用いて板書にかかる時間を減らし、内容も精選して効率の良い学習を進めたい。また、授業支援クラウドアプリを用いて、生徒同士の情報共有・意見交換を容易に行えるようにしたい。

(本時の展開)

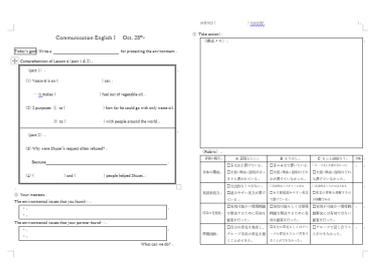
時間	学習活動	指導上の留意点	ICT 活用方法
3分	・ウォームアップをする。	・1 ミニッツトークにより、英語の授業の雰囲気作りをする。	・電子黒板に画像を提示する。
5分	・本 Lesson の Part1・Part2 の振り返りをする。	・電子黒板で画像を提示しながら Q&A を行い、前時までの授業内容について正確に把握させる。	
7分	・環境問題について考える。	・環境問題について調べてきた情報をペアで共有させる。	
20分	・環境問題解決のため、自分たちが取り組むべき身近なことをグループで文章にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題への取り組みである 3R をもとに、グループごとにテーマを与える。(グループ①は Reduce, グループ②は Reuse...等)</li> <li>・授業支援クラウドアプリへ記入させるため、机間指導を入念に行い、様子を観察する。</li> </ul> 〈観察する際のポイント〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指示された内容が書けてい</li> </ul>	・授業支援クラウドアプリ上のワークシートに記入させる。

10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジグソー法を用いて、他のグループのメンバーと、考えた取り組みを共有する。</li> </ul>	<p>るか。（取り組みとその理由、効果について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文法が正しいか。</li> <li>授業支援クラウドアプリの共有フォルダにデータを入れさせることで、座席の移動をせずに意見交換をさせる。</li> <li>読後はデータ上に感想を書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの班のフォルダにデータを入れて、評価させる。</li> </ul>
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめをし、次時の予告と挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品をいくつか紹介し、優れた表現を共有するとともに、振り返りの自己評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板にいくつかの作品を提示する。</li> </ul>

## (授業の様子)



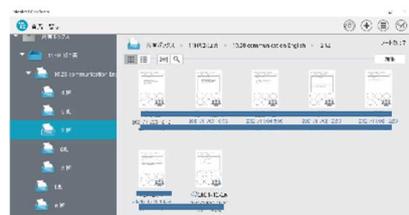
ワークシート（授業支援クラウドアプリ上）



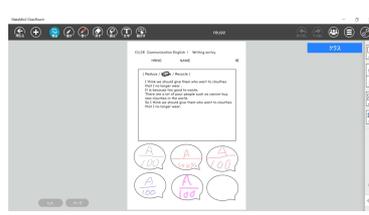
ワークシート（紙）



フォルダの様子①



フォルダの様子②



生徒のワークシート

## (生徒の反応と課題、改善を要する点)

生徒からは、写真が見やすい、説明しているところがどこなのか分かりやすい、といった電子黒板に対する肯定的な意見が多かった。教員からしても、図や写真の準備から、説明時の拡大・縮小まで容易に行うことが出来るため、非常に有効であると感じた。次に、授業支援クラウドアプリの使用に関してはまだまだ課題があることが分かった。生徒のタイピングの速度の遅さや、1人1台端末の使用に慣れていないことなど、紙上での活動に比べて非常に時間がかかった。ただ、生徒は楽しんで作業をしており、また、コロナ禍においてうまく活用すれば授業の幅が広がる教材であることは確かなので、これからも使用を続けていきたい。